

パネル
ディスカッション
PANEL
DISCUSSION

全国林業後継者大会 in 新潟

林業の魅力と厳しい現実について話し合ったトークセッションに続いては、新潟県の林業の第一線で活躍している次世代を担う若者後継者4人がパネルディスカッションに登壇。林業に就いたきっかけから、現場で感じられる林業の苦勞や魅力について、また今後、林業を発展させるための課題などをテーマにディスカッションしてくれた。



↑パネルディスカッションは県内林業に携わる4人をパネリストに迎えて行われた

箕口 まず、皆さんが林業に就いたきっかけを教えてください。

坂本 私は地元で働きたいという強い思いから友人の紹介によって地元の森林組合に就職しました。ただ、当時はネットが現在のように発達していなかったため、森林組合や林業について知る機会もなく、林業についての知識もほとんどありませんでした。

梨本 私は栃木県出身です。スキーが好きで、山と海があり、雪がたくさん降る上越地方に憧れて冬だけのアルバイトとしてスキー場でパトロールをしていました。その当時の先輩が自分の勤めていた森林組合のアルバイトを紹介してくれたのがきっかけで林業の世界に入ったんです。父の実家が材木屋で、幼い頃、父が木を切る姿がとてもカッコ良く見えましたし、そんな憧れも「林業をやってみよう」という気持ちにつながったと思います。

星野 家が代々林業をやっていて私が5代目です。先代から引き継いだ所有林の面積は約1千ヘクタールあります。大学卒業後に父が亡くなって家業を継ぐことになりましたが、林業をやったことがなかったもので2003年岩手県の小岩井農

場に就職し、林業を勉強。2008年に新潟に帰ってきて、現在、勤めている農業法人に就職しました。

上村 私が林業を知ったきっかけはテレビです。三重県の林業を取り上げた番組を見たときに「自然の中で仕事をするのは気持ち良さそうだな」という印象を受けました。その後、林業に就くための情報を探しましたが、残念ながらあまり見つけられず、ハローワークの紹介で新潟県農林公社へ行き、林業就業支援講習を受けた後、現在の会社に就職しました。

山仕事は肉体的には大変でも自然の中で心が癒やされる

箕口 上村さんは映画『WOOD JOB! (ウツジョブ)』の神去なあな日常の主人公と同世代で、林業就業支援講習に参加したこともよく似ていますね。家が林業をしていた星野さんは幼いころから林業を見られていたようですが、実際に山で仕事をしてみてどうでしたか？

星野 子どものころは父の仕事内容まで分からず、「山に何をしに行くんだろう？」と思っていましたけど、自分が実際に体験してみると木の成長を肌で感じ

られる、とても素晴らしい仕事だということが分かりました。木は手入れすればするほど良い木に育ちますのでやりがいがあります。ただ、経営面はとても厳しいです。現在は材価が安いので手入れをする人を雇うほどの収入を得られません。今は作業のほとんどを森林組合に頼っていますが、それでも所有森林のすべてを管理できていく訳ではありません。自分がやらなければ山がさらに荒廃してしまうという思いがあるので補助金を使いつつ少しずつ整備しています。

箕口 坂本さんは森林組合でどのような仕事をされていますか？

坂本 私が森林組合に入社したばかりの頃は植林や下刈りなどの仕事がたくさんあって、職員だけでは間に合わずに地元の方に仕事を手伝ってもらうほどでした。当時の私の仕事は現場の管理がメインだ

だったので、とにかく現場に通って山で作業する人たちと話をし、コミュニケーションを取ることを大切にしていました。その「信頼関係を築くことを大切に」という考えは今も変わりません。林業の仕事はイメージ通り、本当に地味です。しかし自然を相手にする産業という魅力があります。現在は事務的な仕事が多いですが木の成長を感じられる林業の素晴らしいさを伝え、地域の林業を活性化するために何をすべきかを考えています。

箕口 植えた木の成長に関われるのが林業の醍醐味というのは星野さんと同じですね。梨本さんは林業に対してどのような考えを持っていますか？

梨本 私は現場の仕事がメインなので一年中、どんな天気でも山に行きます。危険な作業も多いですが、作業後のきれいに整えた山を見たときの達成感をはじめ



中越よつば森林組合参事
(兼企画管理部長)
坂本典男 さかもとのりお

1976年新潟県長岡市(旧小国町)生まれ。1996年小国町森林組合へ就職。2009年、中越管内の四森林組合広域合併により中越よつば森林組合勤務となる。



くびき野森林組合
森林整備技術員
梨本雅子 なしもとまさこ

1979年栃木県さくら市生まれ。2006年くびき野森林組合就職。2008年に結婚し、現在は一児の母。おばあちゃんになっても仕事を続けたいと日々、奮闘中。



新潟県林業経営者協会
理事
星野宏典 ほしのひろのり

1980年新潟県阿賀野市(旧安田町)生まれ。県内でも有数の林業家の家に生まれる。現在は地元の農業法人で働きながら所有林の管理をしている。



有限会社 丸実
森林技術員
上村拓 かみむらたく

1992年千葉県船橋市生まれ。新潟育ち。2013年村上市にUターンし、有限会社 丸実に就職。現在、刈払い、測量、伐木など、様々な仕事を教わっている。



【司会進行】
新潟大学農学部
生産環境科学科 教授
箕口秀夫 みぐちひでお

1959年長野県生まれ。専門は森林学・生態学。新潟大学農学部副部長として「農力」開発プログラムによる人材育成も推進している。



↑チェーンソーは山仕事の心強い相棒だ



↑ 民家近くでの伐採作業は高い技術が求められる



箕口 皆さんの意見をまとめると、一つは林業はとても不思議な職業ということですが、大変な仕事であるにも関わらずそれを厭わない魅力にあふれています。ぜひ、林業の魅力を多くの人に知ってもらいたいというのがパネリストの皆さんに共通する意見でした。二つ目は林業が理解されることで撒かれた種が芽生えて、育つためには職場や地域で暮らす人のコミュニケーションとコミュニケーションが重要だということ。そして三つ目は今日のパネリストの皆さんの持つ、向上心です。この向上心によって林業の芽生えが大きな木に成長していくだろうと思います。

皆さんがサポートしてくれているので、今は自分ができることを精一杯やろうと考えています。女性がんばって働いている姿がみんなの活力になっていると思うんです。最近、一緒に働いていたじいちゃんたちが病気や体力の衰えで辞めていきました。また若い子たちも将来のことを考えて辞めていき、私が入社したときに比べて作業員数は半分以下になっています。とてもさみしく感じています。

星野 今だけを考えてではなく、未来の環境のために林業をがんばっていきたいと思います。先代から引き継いだ貴重な位置づけになると思いました。うちでは冬期の事業量確保が一番の課題です。屋根の雪降ろし作業の請負や森林整備のほか住宅周りの伐採作業も行います。木を切るという特殊技術でお客様に喜んでいただくためには一人一人のスキルアップが重要で、それが組合を成長させる鍵となると考えます。人材育成を通じて活気ある職場を目指しています。

重なる財産をしっかりと維持し、後世に伝えていきたいですね。うちの山では現在、地元のNPO法人と間伐作業を行ったり、その木を使ってログハウスの建築もやっています。林業や森林に興味のある人は、まずはそんな体験から始めてみてはいかがでしょうか。よろしいかと。

梨本 私自身はまだ若いので、もしかしたら自分で植えた木を自分で切ることができるかもしれません。その日まで今後とも仕事にやりがいを持って、日々、勉強したいと思っています。自分のような若い人が今日のパネリストスカッションや映画『WOOD JOB! (ウッジョブ)』に神去なあなあ日常』をきっかけに林業に興味を持つてくれたらうれしいです。



↑ 炭焼きで顔を真っ黒にした星野宏典さん

梨本 友人で林業に興味を持っている女性もいますが、山でのトイレや虫の話などから尻込みしてしまう人も多いです。私も子どもを出産するまでは体力に自信があり、男性と対等にやっていたと思っています。ところが子どもの病気で急に仕事を休むなど、組合に迷惑をかけるばかり。やる気ばかりが先行し、結果が伴わない情けない状況ですが、職場の



↑ 今回のパネリスト紅一点の梨本雅子さん。写真は梨本さんが倒木後に枝払い作業を行っている様子

季節の移ろいを匂いや肌で感じられる仕事はとても充実していると思います。また、林業に携わるじいちゃんたちの優しさにもびつくりしました。木を敬いながら切り、草を刈つていてどんなに急な斜面でも花が咲いていけば残すなど——自然と共存し、自然に生かされているという風に考えている先輩じいちゃんたちを本当にカッコいいと尊敬しています。

星野 私と同じような若い後継者が不足していますよね。私のように林業を家業としている家に生まれながらも林業を選ばない人も多くいます。それは、材価が安いので林業だけでは食べていけないのも問題です。私のところでは冬に炭焼きをして収入を得ています。今、炭は燃料だけでなく、消臭効果や除湿効果もあり、私の家でも床全面に炭を敷いています。現在、国産の材料は見直されてきていますが、販売のための努力や工夫が必要ですが、また、地球温暖化防止のためにも木材生産に力を入れて、山を手入れするなど、森の未来の在り方を考える時期にもきていると考えます。

ストレスは感じませんよ。

若者を雇用するためには

販売のための努力や工夫も必要

箕口 3Kを代表するような厳しい仕事かもしれないですが、自然に癒やされ、仲間とのコミュニケーションも良好で精神的にストレスがないから続けていられる。このように魅力も多い仕事ですが、もつと若者を雇用するために解決しなければいけない課題は何でしょうか？